

## 第41回野菜需給情報等交換会の概要

- 1 日時  
令和8年2月26日（木） 14：30～17：15
- 2 場所  
独立行政法人農畜産業振興機構 北館6階大会議室
- 3 出席者  
別添のとおり
- 4 概要  
(1) 令和8年度予算概算決定額の概要、適正な価格形成に関する協議会の進捗状況の報告等（議題1）  
農林水産省から、資料1-1に沿って、令和8年度予算概算決定額の概要について、また、資料1-2に沿って、適正な価格形成に関する協議会の進捗状況の報告等についての説明を行った。

### <質疑応答>

(座長)

先ほど説明があったとおり産地によってコストが違っていると、産地ごとに指標を作成することになり、かなり指標が多くなってしまわないか。

(農林水産省)

その通りであり、まずは3品目のコスト指標を作成しているところ。例えば、ばれいしょであれば出荷量で1、2番目の大産地で作成し、それを役所側が示すコスト指標のベースとする。どのように活用していくかはそれぞれの産地や流通業者等で自ら作成していくのだと思う。

(座長)

産地ごとに作成すると、産地はかなり労力がかかるのではないか。

(農林水産省)

都道府県やJAである程度生産コストのデータを持っていると思うので、まず主産地は生産コストを積み上げて指標を作成していただきたいと考えている。今まで産地ではこのような指標データを示していなかったため、なぜこの

値段でないと困るのかということが流通側に伝わらない状況であった。作成するかどうかは産地の判断だが、生産コストを提示することで理解してもらおうという体制を作っていきたい。

(会員) [流通団体]

生産者はコスト指標に期待していると思う。全農に伺いたいですが、現段階で、①一方的な決定の禁止の事例(資料 12 ページ)、②国が定めた最低限取引価格ではない(24 ページ)、③一方的な取引価格の決定の事例(35 ページ)について産地側はどこまでの範囲の方々が理解しているのか。

(会員) [生産者団体]

農水省から説明があった通り、今回コスト指標作成団体が示すのはコストであり、示されたコスト指標を参考にそれぞれの段階が交渉を行うものという認識である。各産地に対しては誤解の無いよう説明している。また、農水省様からも地方説明会等をつうじて説明をされていると認識している。

(農林水産省)

コスト指標が作られたらそれが価格交渉のベースになるのではという声はあるが、それが前提条件になるのではないということを今後も産地側にしっかりと説明をし、理解をいただき、また、売り手側にも正しい使い方をしてもらうよう取り組んでいきたい。

(会員) [小売団体]

相対取引中心の卸売市場において、どのように想定しているかイメージできない。コスト指標が出来るとそれが指値として拘束されて、もし拒否した場合に不公正な取引の方法の対象になるのではとの懸念があるため、生産者を含めて不公正取引の対象になることを伝えたい。相対取引価格の協議については、どのようなことを想定されているのか教えていただきたい。

(農林水産省)

具体的に整理できていないところもあるが、一つは流通側と産地側で相対取引をする場合に年間の価格や量を決めると思うが、その場を相対取引価格の協議の場としていきたい。

(会員) [流通団体]

適正な価格形成に関する協議会のメンバーの1人として改めてお伝えする

と、大事なことは価格ではなくコストであるということ。生産者側がどう理解するかはコストに対してどう議論するかである。需給バランスで価格が決まるのは当たり前であり、現在行っているのはコストの積み上げについて議論していることを理解いただきたい。

(会員) [消費者団体]

セリの際はコストを意識した上で取引が開始されるということか。スーパーなどの直接取引であればコストを踏まえた話し合いの場はできるが、セリの場合はどうなるのか。

(農林水産省)

例えば、流通や市場の段階でも輸送費用や管理費は発生するが、その上でさらに利潤が乗ってくるので、今後このような問題が各流通段階で出てくるのだと思う。

(2) 需給に係る各業界の動向についての意見交換（議題2）

生産者団体、小売団体及び流通団体から需給に係る動向について、意見交換を行った。意見交換概要は以下のとおり。

<意見交換概要>

(会員) [生産者団体]

生産者団体から、資料2に沿って、春夏野菜の出荷計画の概要について説明を行った。

(会員) [流通団体]

キャベツについて、現在全農が掴んでいる情報を知りたい。茨城県は4～5月向けを前倒しで出荷しているため、このままいくと4～5月が品薄になるのではと思っている。元々、4～5月はキャベツを収穫しにくい時期だが、そこを含めて全農はどうお考えか。

(会員) [生産者団体]

今回の対象品目から外れているので細かい情報収集は正直言うとできていない。先日いくつかの主産地を集めて意見交換を行った際に、キャベツに限ったことではないが、総じて最近の降雨と気温上昇により出荷状況が回復しているということは確認している。ただし、今後の天候次第では、収量の増減や品質が低下することもあるため、今後の状況を見ていきたい。

(会員)〔流通団体〕

12月から2月現在までの市場の大きな動きということで説明させていただきます。

- ・野菜全体の12月から2月までの数量は前年比95～120%、キログラム当たりの単価は280～340円台と前年比2～3割安、平年より価格は1割以上高い状況となっている。

- ・だいこん、キャベツ、はくさい、レタスなどの大型野菜の数量は前年比で2～3割増だが、価格は4～5割安と増加量に対して価格の下げ幅が大きい。特に、果菜類の単価は前年比50%、1～2月の価格は3割安と、いかに前年が異常だったかが改めて分かる。大型野菜の下げにより野菜全体も価格が下っており、主要野菜の価格が上がると他の野菜も高くなる傾向にある。先ほどの供給量が少なくなるという単純な話ではなく、全体で数字が動くというところが市場流通の場合では発生する。

- ・年末の値動きについて卸売会社に話を聞いたところ、通常は12月にものが入れば年末に向かって引き合いが強まり価格は上がっていくが、今年は正月休業した量販店が多く、こうした状況もあり前年より盛り上げに欠けていた。

- ・今後については、干ばつの影響により野菜全般で生育遅れによる小玉、細身のものが散見されているが、前年とは異なり株自体はしっかりと植わっているため今後は回復の見込みで、出荷に大きな影響でないと思われる。

- ・品目別には、千葉産の秋冬にんじんは、乾燥のため切り上がり及早まる見込み。3月中旬以降、やや遅れ気味の徳島産が本格出荷を迎えるまで一時的に相場は上がるが、徳島産が順調に出てくれば落ち着くと思う。

- ・ばれいしょ、たまねぎは北海道中心のため引き続き高値で推移し、数量は前年比1～2割減、価格は2～5割高と、数量に対して値幅が大きい。東京や大阪に集約されるため、だいこん、キャベツ、はくさいとは逆の値動きが見られる。全体のばれいしょ、たまねぎの価格は、九州産の増加により下がると思うが、引き続き北海道は高値継続と見ている。九州産のばれいしょ、たまねぎは大きなトラブルはないようなので平年並みの数量になると思われる。

- ・トマト、きゅうり、ピーマンなどの果菜類は受粉が前年より良好だが、需要が高いため、少し数不足の傾向がある。

- ・加工向けについては、現在、キャベツ、はくさいは順調に出回っており、相場も平年並みで動いているため、前年のような引き合いにはならない。たまねぎは前年と比較して2～3倍程度出回っているが元の数量が少ないため、中国、アメリカ、ニュージーランドからの輸入品が入ってきている。学校給食で働いている方によると、前年はたまねぎがそれほど高くなかったので調

理したが、今年は調理する機会が少なく、はくさいやキャベツ等を多く調理していると印象があるとのことである。

(会員) [小売団体]

令和5年度からJA東京アグリパークで8月31日に野菜の日として、販促イベントを開催し、来場者が350人超となった。今年も野菜の日の8月31日に向けて、同パークで開催するので、都合がつけば是非来場していただきたい。

(会員) [消費者団体]

野菜の高騰が継続しており、肥料、資材費、光熱費及び人件費も上がっていることは理解しているが、育ち盛りの子供たちが給食や子ども食堂等での野菜の確保が難しくなっている。

規格外品や不揃い野菜の活用を進め、生産したものを無駄なく流通させていただきたい。野菜には旬があり消費者は栄養や価格が適正な時期を選んでバランスの良い食事をとっていただきたい。育ち盛りの子供たちがいる忙しい家庭が増えているため、例えば、カット野菜や冷凍野菜等を有効に使ってバランスの良い生活をしてもらいたい。

温暖化による気候変動の影響は野菜に対しては大きいと感じている。指定野菜になるブロッコリーには期待しているが、夏の時期のブロッコリーが氷に包まれて輸送されているのを見ると環境に負荷がかかっていると感じる。冬と夏のブロッコリーを比較して大きさが3分の1程度になっているのを見ると旬を大切にする必要があると感じる。

それから、1日の野菜摂取目標の350gについて、平均摂取量がまだまだ届いていないようなので健康維持のためにも消費者に野菜が届くようにしていただきたい。

(会員) [消費者団体]

緊急需給調整事業の報告があると、消費者としては非常に心が痛むものである。多少傷があるものや産地で処分されるものを消費者は安く買いたいと感じてしまうことが問題なのかという認識でいる。青森の産地から市場に出せないりんごを購入しているが、ほとんど傷が無いものが多く何とかならないものかと感じる。農業大国のフランスの状況を調べたところ、給食などの公共食堂では50%以上は地元産や有機野菜を使う義務があり、国産野菜の安定的な受け皿になっているため、こうやって知恵を絞って生産者も消費者も納得感のある価格で切れ目なく供給できる策があるのではないかと感じた。

(会員)〔食品団体〕

令和5年から農水省の野菜を食べようプロジェクトの野菜サポーターに加入し、1日の野菜摂取目標の350gに対して70g不足している生野菜を漬物にすると30gになるとシンポジウムで説明したところ、塩の摂取量が増えるのではないかとの意見があった。以前は漬物の塩分量は10～20%だったが、現在は平均3%と非常に低くなっている。最近では野菜にはカリウムが多く含まれているという機能性の部分をPRするため色々な場所で活動している。今年の5月に東京ビックサイトで開催する東京ホビークッキングフェアに出店し、日本全国の漬物を試食販売し、機能性などをPRするつもりでいる。

(座長代理)

野菜の需給については、2030年までに加工業務用の32万トンを目安に国産に切り替えるという目標が冒頭の農水省の説明であったが、特に、たまねぎ、ねぎ、にんじん、かぼちゃ、ブロッコリー、えだまめ、ほうえんそうの重点7品目の切り替えが必要だと考える。4～7月の春夏にんじんは、加工用業務用の業者からの需要がある大型規格はこの時期不足するため中国からの輸入が多くなるが、市場の入荷量という観点からはほぼ需給を満たせそうと感じた。

(3) 加工・業務用野菜のシェアが増加する中での各業界の課題・工夫についての意見交換(議題3)

小売団体から、資料3-1に沿って、SM物流研究会の取り組みについて、また、生産者団体から資料3-2に沿って、全農園芸部門における物流対策についての説明を行った。

<質疑応答>

(会員)〔流通団体〕

小売団体の説明の中で出てきたパレット配送について、自社パレットなのか、レンタルなのか、メーカーごとにルールはあるのか。また、共同配送をする際にパレットの回収や管理、紛失した場合の費用負担等の仕組みはどうなっているのか。

(会員)〔小売団体〕

費用負担についてこの場で直ぐに回答できないが、パレットについては自社パレットのケース、レンタルのケースに分かれているという印象がある。パレットのサイズ規格はT12型、T14型もあるが、小売センターではT11型パレットに対応する仕様になっているため、SM物流研究会としては出来るだけ

T11 型パレットでお願いしている。

(会員)〔流通団体〕

青果物については、量販店主導で方向性を決め、メーカーの段ボールは1種類に統一する必要がある。現在のパレットのサイズを誰が決めたか知らないが、何の根拠もないのではないか。T11 型や T12 型を今後どう使っていくかは、関係者間で解決に向けて協議いただきたい。

費用については、パレットに RFID 機能をつければ追跡は可能で、それだけで会議を開催してもいいと思う。

(4) 野菜の需給状況及び緊急需給調整事業の実施状況等について (議題 4)

農畜産業振興機構から、資料 4 に沿って、令和 7 年度緊急需給調整事業の実施状況についての説明を行った。

(別添)

出席会員

生産者団体	全国農業協同組合連合会
	全国農業協同組合連合会
	(公社)日本農業法人協会
消費者団体	(一社)全国消費者団体連絡会
	(一財)消費科学センター
	主婦連合会
	全国女性団体連絡協議会
消費拡大団体	(一社)ファイブ・ア・デイ協会
流通団体	(一社)全国中央市場青果卸売協会
	(一社)全国青果卸売市場協会
食品団体	(一社)日本惣菜協会
	(一財)食品産業センター
	全日本漬物協同組合連合会
	野菜流通カット協議会
	日本スープ協会
	(一社)全国清涼飲料連合会
小売団体	(一社)日本スーパーマーケット協会
	全国青果物商業協同組合連合会
学識経験者等	藤島廣二 東京農業大学名誉教授・東京聖栄大学学長付相談役(座長)
	小林茂典 高知大学次世代地域創造センター土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業特任教授(座長代理)
行政機関	農林水産省